

美しくなつかしい、日本をのせて。

Cradle

[クレードル] 出羽庄内地域文化情報誌

7

2014 July/August
TAKE FREE
NO.24

特集
まるごと
加茂水族館
庄内憧憬
あがた森魚
ミュージシャン



Cradle 7

美しくなつかしい、日本をのせて。
[クレードル] 出羽庄内地域文化情報誌

2014 July/August

平成26年7月1日発行(隔月奇数月発行)第4巻6号(通巻24号)

発行/Cradle事務局 山形県鶴岡市山王町8-15(株式会社 出羽庄内地域デザイン) 電話0235(64)0888

制作/Cradle編集部 山形県酒田市京田2-59-3[コマツ・コーポレーション] 電話0234(41)0012



夏を見つめる 黄金の海

S 荘内銀行

FIDEA GROUP

地域発信。言葉はたやすいけれど、愛とアイデアなくしては人に届かない。その場所で生まれたものを発信する、そういう鶴岡に来ると、生き返ったような気がする。

どういう巡り合わせか、このところまた親しみを増してきている山形県鶴岡市。

『くらげとあの娘』と鶴岡と。

あがた森魚

街道筋の古民家がそのままお蕎麦屋さんになった「大松庵」は、もう随分前から、僕のコンサートを企画してくれている。ここでのライヴは生まれるさとの本家に帰ってきたような気分になる。土間で歌い、親族郎党ごぞつて記念写真を撮る、そんな風情。終わってからは蕎麦と地酒、そしてダンスパーティーが夜明け近くまで続く。一見、寡黙そうな店主ご夫妻が、そのつど集った人々を本当に楽しそうにしててくれる。

そんな鶴岡の町に、今度は映画に出演するためにやつてきた。

鶴岡出身の監督、富樫森さんが、僕の育った函館の町で『星に願いを。』のロケをしたときのこと。当時、助監督をしていた宮田宗吉さんと出会い、その縁で、今回新作を撮るので出演してほしいということになった。

その映画の舞台となるのが加茂水族館だった。僕の役はそこの館長だとい



6月6日、鶴岡まちなかキネマでのミニライブ

ような気分にさせられた。何ともいえずなごむ。

ロビーにEssexのグランドピアノがあり、そこで一時間ほどのライヴをやつた。『くらげとあの娘』をたくさんのお客さんと見て、その後、映画の感想を織り交ぜながらのライヴ。映画が発信された鶴岡の地で、地元の皆さんたちともコミュニケーション。素晴らしい一夜だった。

地域発信。言葉はたやすいけれど、そこに流れる愛と他愛のないアイデア。それなくしては人に届かない。古民家のお蕎麦屋さん。くらげだらけの水族館。機織り工場から生まれた映画館。その場所から生まれたものを発信しようとすると人々。そういう鶴岡に来ると、生き返ったような気がする。

もつとも、北海道の留萌、小樽に生まれ育った自分には、鶴岡の町の日本海の海は故郷のつながっている大事な場所、光景もある。

僕の知ってる『くらげとあの娘』と水族館と映画館とお蕎麦屋さん。またいつも鶴岡に来なくなってしまう。

あがた もりお／1948年、北海道生まれ。1972年に「赤色エレジー」にてデビュー。20世紀の大衆文化を彷彿とさせる、幻想的で架空感に満ちた作品世界を、音楽映画を中心に戦闘。2013年12月、41枚目のオリジナルアルバム「すびかたい」アナログ盤はCD盤をリリース。全国でライヴを展開中。劇場公開作品3本を監督、俳優や執筆などでも活躍。日記映画月刊で上映している。

う。じつは、本物の館長である村上龍男さんはすごい人なのだ。すでに知られている通り、水族館をくらげだらけにし、その種類数が世界一になり、ギネスにまで認定された。館内の展示やアイデアは、一途にくらげや水族館を愛してのこと。そんな館長さんの大役ではあったが、マイペースでやらせてもらうことにした。

映画の物語はこうだ。採用面接で「くらげになりたい」と答えた水族館の青年と、人生不幸続いたとする女性とが、水族館で一夜にハイライトを迎える恋物語。くらげの命は長くて約一年というが、一人の恋はつかの間一夜きりの恋だったのか？ 完成した作品を見終わった後、不思議な感慨が胸に迫った。

6月6日、『くらげとあの娘』の上映に合わせてミニライヴをやるという形で鶴岡を訪ねた。映画館は鶴岡まちなかキネマ。かつての木造平屋の機織り工場の建物を改築したものだという。スクリーンが4つのシネコンスタイルだが、懐かしい木造校舎の分校に来た

惑星を思わせる大水槽

ミズクラゲが泳ぐ直径5メートルの大水槽
は「クラゲプラネット」と呼ばれていました
が、加茂水族館では今年7月21日まで新
たな名称を募集しています。応募資格は
入館者のみ。館内にある募集用紙に記
入して応募箱に投函します。来館したら
ぜひ応募を。

特集

まるごと 加茂水族館

地方の片すみにある古くて小さな水族館が、
飼育や繁殖が難しいとされてきたクラゲで世界一に。
今年6月に誕生した「クラゲドリーム館」に至る
84年にわたる加茂水族館の軌跡を
まるごと紹介します。

ふとみつけた小さな生物との出会いから4年目の平成12年、狭く古い館内に、クラゲ専用の展示室「クラネタリウム」が誕生しました。

クラネタリウム、誕生



平成12年のクラネタリウム

この頃は12種を展示。泳いでいるのはミズクラゲです。



平成25年11月

閉館イベントでは、ゴンチチがお別れコンサートを開催しました。



平成14年

35年ぶりに鶴岡市営に。翌年、クラゲの繁殖室に富塚陽一市長揮毫の看板「鶴岡市クラゲ研究室」が掲げられました。



平成11年

「クラゲ学習会」スタート。クラゲの生態や繁殖などについて楽しく学びます。



平成26年3月

市民ボランティアがクラゲを新水族館に移動。オープン間近です。



平成22年4月

ノーベル化学賞の下村脩先生が奥様と来館。1日館長となりました。



平成12年

「クラゲを食べる会」スタート。定期的に開催され、これを元に平成18年、クラゲレストランがオープンしました。

加茂水族館へ
行こう

特集 2

クラゲと出会い 世界の水族館となるまで

1997-2013

平成25年の閉館まで
50年間お世話になりました。



どん底の時に出会ったクラゲ。
階段を駆け上がるようになっていた奥泉さんは、水槽のライト下に小さな生物が泳いでいるのを見た。奥泉さんは、水槽のライトの赤ちゃんが展示用のサンゴにくつづいていたポリープから繁殖したものと教えられます。試しに奥泉さんは餌をあげ、大きくなつたクラゲを展示してみると、それを見たお客様が大喜び。思わず手ごたえに驚いた奥泉さんと村上館長は、すぐに海で採取するなどしてクラゲの種類を増やして展示をしました。するとさらにお客様の喜ぶ姿が。2人は嬉しくなり、種類を増やしてクラゲ展示を充実させようとしますが、サカサクラゲ以外はすぐに死んでしまいます。「それなりに工夫してもダメでの。2年くらい経った時、奥泉くんが『わかった』と。サカサクラゲは底にくつづいているだけだから飼うのが簡単だけど、他のクラゲは水槽じやないと飼えないと言っています。ただお金がないから、高価なクラゲ用水槽が買えなくての」と村上館長。

一代目水族館で起きたすべての出来事が、新たな水族館の実現へ。

こうして地道に工夫を重ね、クラゲを1種類ずつ生態解説していく。加茂水族館は、平成12年に日本一クラゲの展示種類が多い水族館になりました。この流れに乗つて村上館長は「クラゲを食べる会」という前代未聞のイベントを発足、全国的な話題となります。その勢いはとどまることを知らず、17年にはついにクラゲの展示種類数で世界一に。一連の優れた実績と研究成果は国内外の専門家からも一目置かれるようになり、22年にはオワンクラゲの緑色蛍光タンパク質発見でノーベル化学賞を受賞した下村脩先生が、かねてから贈っていた村上館長のラブコールに応えて来館しました。そうして24年にはクラゲの展示種類でギネス認定を受けるまでとなり、加茂水族館はテレビや雑誌の取材が殺到、休日には県内外からの人々であふれ返る超人気水族館となりました。

村上館長は話します。「二代目水族館は昭和39年に開館し、一時閉館を経てどん底まで落ちました。でもあの時期にクラゲと出会って、奥泉くんがいて私がいて。こうしてすべての出来事がつながつて今があることを考えると、今年開館したクラゲ水族館は、まさに天の采配のような気がします」。



昨年11月の閉館イベントにて。榎本政規鶴岡市長と加茂水族館職員の皆さん。

世界のどこにもない水族館へ。
階段を駆け上がるようにな

それでも初めての手ごたえを掴んだ奥泉さんは自力で工夫を重ね、ついに平成11年、加茂方式のクラゲ水槽を開発。飼育を実現しました。同時に繁殖にも取り組み始め、クラゲの卵を探すために必要な顕微鏡が買えない中、奥泉さんはまたもや自分で繁殖を成功させます。

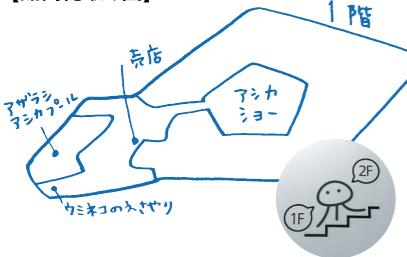
「あの時の嬉しさは天にも昇る気持ちはだっけの。奥泉くんは、その後ようやく手に入つた顕微鏡をのぞいて、小さなクラゲの光り輝く生命力に感動しての。その感動を子どもたちにも伝えたいと、クラゲ学習会を始めたんです」。



屋外のアザラシプール

前の駐車場だった場所に建設された新館。館内中央部にあるショーブールは、アシカたちが水中で泳ぐ姿を見られるようになった他、テラスや屋上に向かう通路からも眺められるように。芝生が敷き詰められた屋上には、ピロティの売店などで購入した軽食や飲み物の飲食もできます。アシカショーのお姉さんや魚類担当のお兄さん、売店のお母さんたちお馴染みの顔も勢ぞろい。

【館内見取り図】



淡水魚コーナー

外観は海に浮かぶクラゲをイメージ



今までの夢をのせて クラゲドリーム館、誕生

平成24年の着工から約2年。今年6月1日、早朝から人々が行列を作る中、三代目加茂水族館がオープンしました。その名も「クラゲドリーム館」。海に浮かび、回遊するクラゲをイメージした外観は、加茂の磯浜で真っ白に輝いています。村上館長から館内を案内していただきました。

明るく、開放的な2階入り口から館内に入ると、天井からクラゲのオブジェがぶら下がっています。壁面にはクラゲをモチーフにした

可愛いらしい案内表記が。よく見るところに遊び心が施されています。「これはの、『クラゲを食べる会』を始めた時に気づいたな。まじめに考えていてはダメ。常識を超えたもの、人に話した時に笑われるぐらいのことないと成功しない。それからは馬鹿くさいことが平気でできるようになっての」と村上館長。ふと館長が着ている法被の胸元を見ると、お茶目な格言。一見、都会的に大変身したかのよう

にみえる加茂水族館には、今まで館長が着ている法被の胸元を見ると、お茶目な格言。一見、都会的に大変身したかのよう

ショータイムスケジュール	
午前	午後
9:30 アシカショー	13:30 アシカショー
10:00 アシカショー	13:45 あざらしタッチ
10:15 あざらしタッチ	14:00 クラゲの給餌解説
11:00 クラゲ給餌解説	14:30 ウミネコの餌付け
11:30 アシカショー	15:30 アシカショー
11:45 あざらしタッチ	15:45 あざらしタッチ
12:00 ウミネコの餌付け	16:30 クラゲの給餌解説

加茂水族館館長
村上龍男さん

昭和14年、東京都原宿生まれ。山形大学農学部卒業後、民間企業を経て昭和41年に鶴岡市立加茂水族館に勤務。42年に館長となり、以後47年にわたって加茂水族館と苦楽を共にしてきた。



特集3 庄内浜の生き物や 浜文化を中心に 地域の宝を目指して。



幻想的なエントランスから
世界最多50種展示の
クラゲドリーム館真髄へ

暗い順路を抜けると、ヒトデなど磯の生き物に直接触れられる「キッズコーナー」があります。そこでひと遊びしたら次はメインのクラゲ展示へ。ここからは奥泉さんに案内していただきました。「クラゲarium」のエントランスには、子どもたちによる多種多様なクラゲの絵が勢ぞろい。先进むと薄暗い順路に沿って、さま

の親しみやすさ、温もりがそのまま残されました。

最初の展示は「庄内の磯釣り文化」から。壁面には村上館長お手製の庄内竿が何本も飾られ、庄内の磯浜が描かれている昔の絵図なども紹介されています。次はいよいよ魚の展示スペースへ。イワナなどの川魚から庄内浜でお馴染みのマダイやアカエイ、深海のズワイガニなど、庄内浜の生き物を豊富に展示しています。

磯釣りを奨励した庄内藩の歴史なども紹介されています。次はいよいよ魚の展示スペースへ。イワナなどの川魚から庄内浜でお馴染みのマダイやアカエイ、深海のズワイガニなど、庄内浜の生き物を豊富に展示しています。

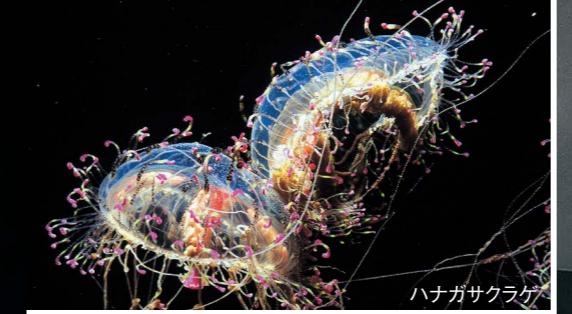


魚匠ダイニング「沖海月」

エントランスホールの右手奥にあるショップとレストランは、入館料なしで利用可。人気のクラゲアイスやクラゲラーメン、庄内浜の魚を味わえるメニューがあります。小学生以上を対象としたクラゲ学習会は、10名以上70名まで対応、希望日の1ヵ月前までに申し込めば誰でも受講できます。現在、学習会の先生役を務める「クラゲッターズ」には、学校の先生をしていた方が多いとか?!



クラゲプラネット



ハナガサクラゲ



鶴岡市クラゲ研究室



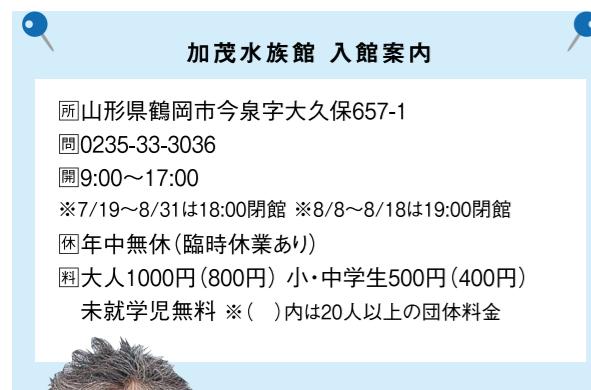
クラゲバーにて



クラネタリウムのエントランス



ヤナギクラゲ



加茂水族館 入館案内

山形県鶴岡市今泉字大久保657-1
0235-33-3036
開:9:00~17:00
※7/19~8/31は18:00閉館 ※8/8~8/18は19:00閉館
休年中無休(臨時休業あり)
料大人1000円(800円) 小・中学生500円(400円)
未就学児無料 ※()内は20人以上の団体料金



加茂水族館副館長
奥泉和也さん

昭和39年、旧藤島町生まれ。庄内農業高校卒業後、昭和58年に加茂水族館に勤務。平成11年、加茂方式のクラゲ水槽を開発。20年、オキクラゲの累代繁殖で古賀賞を受賞。

クラゲドリーム館は まだまだ進化を続けます。

円型の水槽が惑星のように現れました。直径5メートルの水槽に約二千のミズクラゲが泳ぐ「クラゲプラネット」です。「私たちは世界で唯一のクラゲ水族館を建てる」と、ずっと夢を抱いてきました。そのために毎年のようにクラゲ展示室の増改築を繰り返し、一つ一つ課題を克服してきました。だからこの大水槽や水族館は、私たちの経験と想いそのものです」。たったひとつ希望の光を見つければ、人間立ち上ることがで

きる。村上館長がそう語るよう

に、クラゲと出会って立ち上がり、暗い展示室に戻り、幽玄なクラゲを眺めながら曲がりくねった順路を進んできました。「でもこれは地球進化の段階に例えると、カニブリア紀以前の通常進化です。まだ爆発していません。これから

とてつもないことがまだ起きる予定です」と奥泉さん。クラゲにもらった夢がどう広がっていくのか、これからも目が離せません。

クラゲ展示を通して 世界中に水族館の 新たな展示の可能性を



ざまなクラゲが登場しました。「ここでは現在50種を展示しています。これは、世界のどこの水族館の人も来ても腰を抜かすほどの数ですが、この数はもうあまり意味がありません。大事なのは見せ方です」と奥泉さん。

ふと頭上に「クラゲバー」の看板が。クラゲ栽培センターをバーカウンターに見立てたこの空間は、顕微鏡で成長段階のクラゲを観察

できます。これは、世界のどこの水族館の人も来ても腰を抜かすほどの数ですが、この数はもうあまり意味がありません。大事なのは見せ方です」と奥泉さん。

ふと頭上に「クラゲバー」の看板が。クラゲ栽培センターをバーカウンターに見立てたこの空間は、顕微鏡で成長段階のクラゲを観察

成功で「繁殖賞」を、オキクラゲの累代繁殖成功で「古賀賞」を受賞した奥泉さん。近年はその実績から、山形大学理学部の半澤直人教授らとパラオプロジェクトに参画したり、海外から訪れる水族館の専門員にレクチャーをしたりと、めざましく活躍しています。「今はこの設備や今までの研究実績を生かして、大学や研究機関のお手伝いをしていければと考えています。学生たちの研究の場、教育の場として、この研究所をどんどん提供していきたいですね」。

今までにキタミズクラゲの繁殖成功で「繁殖賞」を、オキクラゲの累代繁殖成功で「古賀賞」を受賞した奥泉さん。近年はその実績から、山形大学理学部の半澤直人教授らとパラオプロジェクトに参画したり、海外から訪れる水族館の専門員にレクチャーをしたりと、めざましく活躍しています。「今はこの設備や今までの研究実績を生かして、大学や研究機関のお手伝いをしていければと考えています。学生たちの研究の場、教育の場として、この研究所をどんどん提供していきたいですね」。

加茂水族館へ
特集
行こう 4

訪れるたびに 驚きと感動がある 世界で一つの水族館へ

黄色い花のようなサンゴと
色鮮やかな、小さな魚。庄内の海中にて
夏を連想させるワンシーン。

毎年夏、庄内沖には対馬暖流に乗つ
て色鮮やかな生物がたくさんやつてくる。
体長2センチというすこぶる小さ
いこの魚もその一つで、7月頃から観
ることができるソラズメダイだ。

庄内の海中は地味に思われがちだが

ちゃんとサンゴも存在する。思つてい
るイメージとは異なるが、これは一
つが黄色い花のようなムツサンゴ。
知つてか知らずかソラズメダイは、
よくこのサンゴのそばにいる。海中に
て夏を連想させられるワンシーンだ。





南禅寺屋の 南禅寺豆腐

庄内人なら誰もが暑くなってくると
食べたくなる、夏の名物詩
何でも京都に由来があるとのことだけれど
アチラの南禅寺豆腐は丸くない?!

手のひらサイズのまるい豆腐。弾力とハリがあるけれど、箸でつづけばほろりと崩れ、口の中で大豆の味が広がっていく。これはご存じ南禅寺豆腐。夏季限定の庄内版冷奴だ。

元祖はその名も酒田の南禅寺屋。もとは当主小寺家の先祖が西回り航路華やかだった頃、お伊勢参りに向かう途中の京都で病に倒れ、路銀を使い果たしたことに始まる。家に帰るためには稼がねばと南禅寺に住み込んで働いた際、せっかくだからとご当地名物、豆腐の製法を身につけた。帰郷後、俗に肝煎小路と呼ばれる通りに店を開き、豆腐を売るとなまち評判に。作り方も広まり、いつしか庄内中の豆腐屋が手がけるようになった。

小寺家に代々伝わるこの言い伝え。確かに京都南禅寺の周辺では、お寺の精進料理を起源にした有名な豆腐がある。庄内には、方言をはじめさまざまな生活風習に上方の影響が見てとれる。だから両者の関連性は確実とみて間違いない。だが、本場京都の南禅寺豆腐は、丸くないどころか湯豆腐にして温めて食べるという。どこでどう違つていったのか。それを思うとやはりこちらの南禅寺は、この地で育ってきた郷土のものなのだろう。

ちなみに豆腐の代表格、木綿豆腐と絹ごし豆腐は、木綿でこしたものを木綿豆腐、絹布でこしたものを絹ごし豆腐、というわけではない。製造工程の違いで生まれる食感イメージを名前にしたのだ。製法的にも、味わい的にも、両者の中間にあるという冷え冷えの南禅寺豆腐に生姜をのせて、醤油をたらして、味わう。当たり前に食べててきた食べ物に、日本文化の奥深さを感じた。



酒田市日吉町にお店を構える南禅寺屋の創業は江戸末期。以来、同じ井戸水で各種豆腐を作り続けている。南禅寺豆腐は、大鍋に豆乳を入れ、にがりを加えながらかき混ぜ、しゃくしやすくって円筒の型へ流し込んで固めるという昔ながらの作り方。毎年4月から9月中旬までの季節限定製造で、暑い日には一日1000パック以上作る時もあるとか。

南禅寺屋 0234-22-0581

緑陰の 山城跡を歩く



本丸からの眺め

緑濃き初夏、澄み渡った青空から日差しが降り、川面に映つて思わず目を細める。

温海川、庄内小国川、鼠ヶ関川では、いよいよ鮎釣りの解禁日を迎える。鮎釣りというと山奥の渓流かと思うが、ここは、海からそう遠くない。

飛ぶ鮎の底に雲ゆく流かな 一上島鬼貫

庄内小国川に沿つて歩くと「古城小国里」の看板が目に飛び込み、突如、幅広い一本の道路と、その両側に家が立ち並ぶ町並みが現れる。宿場町当時の町割りのままのようで、集落の南端に小国関所跡がある。ここが江戸時代には小国

れ、浜街道は裏街道の様相だったという。

小国関所跡を進むと、山裾に朱色の鳥居が立ち、参道を杉木立が縁取る。社叢へ続く石段の最上部の一本が一番古く、その樹齢はいったいどのくらいなのであろう。小国城本丸跡に面するようにして、城の鎮守と伝えられる熊野神社がある。五月の例大祭では、江戸時代から伝承されてきた神輿と大名の渡御が練り歩く。

水馬水ひつぱつて歩きけりー上田五千石

神社の近くに、小さな池を見つけた。水面にはアメンボがすべり、水中にはメダカやイモリやおたまじやくしがいる。少し歩くと、今では廃校になり、宿泊施設となつてある旧小国小学校の木造校舎が佇む。広いグラウンドに立つて目を閉じると、子どもたちの声が聞こえてくるようだ。山法師と楓の木が、校舎を見守るように添え立つている。

城山の麓竹皮脱ぎにけり 一あべ小萩

夏の蝶小国の裔のこゑ響く 一あべ小萩

過ぎ、歩き始めて一時間ほどで「本丸」に辿り着いた。ここからは遠く日本海、そして眼下には小国集落と街道が一日に見渡せる。

小国城跡は日本海側では珍しい山城跡で、平成十四年に国史跡に指定された。

羽越国境と主要街道を守るために十四世紀に築城されたとみられるが、一六一五年「一国一城令」により廃城となつた。「本丸」に立ち、初めてこの景を見ることができたことが不思議であった。

小国集落に入つてすぐ右手に入ると、小国城趾への登り口がある。数本の山法師と都忘れの群生が並んで出迎えてくれた。入り口の竹林を進むと竹落葉の感触が足に優しい。鬱蒼とした杉木立の中に入れば、足元にはウワバミソウの花が咲き、シダ類の林床が木漏れ日をいっぱい

に受けている。一人がようやく歩けるほどの道を山腹へと登ると、突然、平坦な広場が現れる。「駒立場」である。尾根伝いに立つと、山の面を駆けのぼる風が、汗ばんだうなじを心地よくなる。「駒立場」を境に植生はがらりと変わる。ブナやミズナラのトンネルをくぐり、足元には胡桃の殻や栗の毬。二羽のクロアゲハが道案内をしてくれた。途中、ごく最近にできたクマハギ（熊が木の皮をはいだ跡）を見つけた。「三の丸」「二の丸」と

過ぎ、歩き始めて一時間ほどで「本丸」に辿り着いた。ここからは遠く日本海、そして眼下には小国集落と街道が一日に見渡せる。

理由がなければ行かない場所は、じつはたくさんある。今はひつそりと静かな古の場所を訪ね、日常の喧騒から自らを解き放ち、時の変遷に思いを馳せた。



ブナのトンネル



温海小国地区